

身近な

水

から

自分たちの生活を考える

神奈川県横須賀市 横須賀「水と環境」研究会





思いのほかハードだった。

神奈川県横須賀市で活動する横須賀「水と環境」研究会が主催する「平作川源流を探る」がである。

平作川は横須賀市を流れる十キロ口の二級河川。その源流は横須賀市のほぼ中央にある大楠山の中腹にある。一行は、川沿いを歩きながら、途中、化学測定などをし、大楠山登山口にたどりつく。総勢二十名は、ここで二手にわかれる。およそ半分の人たちは、長靴に履き替え、沢伝いに源流探しに挑戦する。水につかり、ゴツゴツした石や横倒しになった枯れ木を乗り越える。そして急峻な登り。女性四人を含む、熟年のグループは、これらをものともせず進む、先頭の六十四歳になる代表の高橋弘二さんは、木の間にロープを張り、あとを歩く人が登りやすいように手助けをする。そして、途中で平作川の源流を確認し、登山道に這い出て、ここを登ってきたメンバーと合流する。

横須賀市を中心とする三浦半島には、この平作川をはじめとし、わずか二キロ口から十キロ程度の短い河川が、およそ三十本流れているという。

昭和六十三年、市の市民大学「水と環境の科学」の参加者を中心に発足した同研究会は、



発足以来、毎月二回、これらの河川を丹念にたずね歩いている。この中で、COD、PH、NO<sub>2</sub>などの水質調査、水棲生物の調査を行なうとともに、あるときは道路の伸張や護岸工事が河川や周囲の景観にどのような影響を与えるのか観察し、あるときは里山の景観を楽しみつつ川紀行を続けている。そして調査した水質項目や水辺の環境項目を点数化し、「自然が残っている川」のAランクから「絶望的な川」のEランクまでの五段階評価で自然度を算出。この結果を環境フォーラムなどで展示、発表し、環境保全の必要性を市民にアピールしている。この日は、交通量の多い黄金橋付近や源流入り口など五箇所を調査を行った。

同会では、このような定期的な川の診断とあわせて、もう一つ大きな取り組みが、平成十四年から始まった市内の各種の市民団体に呼びかけての、小・中学生を対象にした土曜体験プロジェクト「すかつ子セミナー」を企画、実行。市内には、福祉、国際交流など五十を超える市民団体があるが、これの団体に、「週五日制に伴い、自分たちの活動の一端を体験させては」と市民団体に呼びかけ始まったもの。ゴミ・リサイクルなどの生活環境分野など六コースを十八の市民団体が手分けし



■連絡先

〒239-0844  
 横須賀市桜ヶ丘2-4-16  
 高橋 弘二  
 mail:hirojit@jcom.home.ne.jp

て担当している。高橋さんたちは、この同会では、水と生きものを担当し、身近な水から自分たちの生活を考えようと、子どもたちを連れて地元の川などを歩いて回った。

「異なるジャンルの市民団体と関係をもつことで、個人の視野も、市民団体の活動の幅も広がるはず」と市民団体の横のつながりを深めることも狙いとした。今後も、すかっ子サポーターも増やし、輪を広げていくつもりという。

「源流を探る」では、「リタイアして、毎日何をしているの。出てらっしゃい」と言われて参加したという東京都大田区から出席した小林さんをはじめ、メンバー以外の六人が参加した。各自、万歩計を持参し、休憩時には歩数の確認に余念がない。

環境保全の活動とあわせて、熟年の人たちにとっての社会参加になっている。